

元祖 石川書店

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校 読書日より

『三休』がてますね。
たのしみです。よみあいで
ハシクニヤ。

第20話 R02.06.19(金)
「あこがれの日々が私を
じっと待っている。」

★今回、紹介する本は、『うたうおばけ』(著/くどうれいん、出版/書肆侃侃房)。

岩手県盛岡市出身で在住の「工藤玲音」さんのエッセイです。工藤さんは、短歌や俳句をつくる歌人でもあり、働きながら、さまざまな活動を続けている女性です。高校の文芸部のコーチもしています。

そんな工藤さんが、日々感じていることを書き綴った本作では、非常に魅力的な友だちがたくさん登場してきます。その一人一人の行動や言葉がとっても愛おしいです。

決して、ドラマチックではないけれど、日常のさりげないシーンが豊かな感性で捉えられていて、とても心地よい読書体験ができます。そして、自分の近くにいる誰かを、とっても優しい目で見たくなるような1冊です。一つ一つの言葉のチョイスもすごくすてきです。



うたうおばけ
くどうれいん

ジャケットが、アモカワソウらしいです。

自分の身のまわりには、実は宝物がたくさんある。たとえ改めようと思わなくても。

「ちやうどまぼろしみたいに見たいと思ってました。」
(p.109)

「お待ちしていますから大丈夫ですよ。」
(p.187)

「どんな人の周りにもたくさんシーンはあるのだと思います。」
(p.189)

HOPE。